

第 1 回 放射線遮へい設計指針検討会 議事録

1. 開催日時：平成 18 年 6 月 6 日（火）13：30～15：50
2. 開催場所：日本電気協会 4 階 C 会議室
3. 参加者 （順不同，敬称略）
 - 委員：原口・桜木・牧平（東京電力），白尾（中部電力），今井（北陸電力），宍道（中国電力），井上（九州電力），中島（富士電機システムズ），久保田（三菱重工），藤田（日立製作所）（計 10 名）
 - 委員代理者：齋藤（東北電力・伊藤），谷口（日本原電・藤田），武田（電源開発・星野）（計 3 名）
 - 欠席者：佐々木（北海道電力），中村（関西電力），長尾（四国電力），上松（東芝）（計 4 名）
 - 事務局：長谷川（日本電気協会）（計 1 名）
4. 配付資料
 - 資料 No.1-1 放射線遮へい設計指針検討会および放射線管理分科会委員 委員名簿
 - 資料 No.1-2-1 第 16 回 放射線遮蔽設計指針検討会 議事録（案）（公開以前）
 - 資料 No.1-2-3 放射管理合同検討会（仮称） 議事録（案）
 - 資料 No.1-3-1 第 3 回放射線管理分科会議事録
 - 資料 No.1-3-2 第 4 回放射線管理分科会議事録（案）
 - 資料 No.1-4 原子力規格委員会議事録（抜粋）
 - 資料 No.1-5 学協会規格の技術評価について（抜粋）
 - 資料 No.1-6 発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令及び解釈（抜粋）
 - 資料 No.1-7 放射線管理分科会 H 1 8 活動計画
 - 資料 No.1-8 放射線遮へい設計指針検討会 幹事会 議事メモ
 - 資料 No.1-9 発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令他（東電提出資料）
 - 資料 No.1-10 JEAG4615 改定における意見（日本原電提出資料）
 - 参考資料 1 （社）日本電気協会 原子力規格委員会について
 - 参考資料 2 最も早い策定手続きを想定した場合の規格策定スケジュール
 - 参考資料 3 原子力発電施設の技術基準の性能規定化と体系的整備について（抜粋）
 - 参考資料 4 安全設計分野及び放射線管理分野における日本電気協会規格の技術評価について（抜粋）

5. 議事

(1) 会議定足数の確認について

事務局より委員総数 13 名に対して本日の出席委員数は，代理委員も含めて 13 名で検討会決議に必要な委員総数の 2 / 3 以上の出席が確認された。

(2) 委員変更紹介および検討会主査の選任について

出席委員全員による自己紹介のあと、事務局より、資料 No.1-1 に基づき、3月の委員変更に伴う分科会書面投票以降に連絡のあった委員変更の紹介があった。

検討会主査は、互選手続きで、東京電力・原口委員が推薦され、挙手により本人を除く全員賛成で選任された。検討会主査から、副主査の選任は改定方針が固まった段階で指名することとした。

(3) 代理参加者の承認について

本日、代理出席の齋藤氏（東北電力・伊藤委員）、谷口氏（日本原電・藤田委員）、竹田氏（電源開発・星野委員）の会議参加に検討会主査から承認された。オブザーバ参加者はなかった。

(4) 前回議事録（案）の承認、第 3 回・第 4 回放射線管理分科会議事録および原子力規格委員会議事録の紹介

事務局より、資料 1-2-1,1-2-2 に基づき、前回の検討会議事録（案）が紹介され、本内容について承認された。また、資料 No.1-3-1,1-3-2,1-4 に基づき、第 3 回・第 4 回放射線管理分科会議事録（案）およびこれまでの原子力規格委員会の議事録のうち、本検討会に関連する内容が紹介された。意見は以下のとおり。

前回制定時からの課題は残っているか。

前回の制定時におけるパブコメ、及び、原子力規格委員会時に提起されたコメントがあり、これらコメントの配慮が必要と考える。

(5) 背景紹介および活動計画の紹介

事務局より、資料 No.1-5,1-6 および参考資料 3,4 に基づき、これまでの JEAG4615 の JEAC 化に至った経緯が紹介された。また、資料 No.1-7 および参考資料 2 に基づき、活動計画が説明された。背景および活動計画について特に意見はなく、事務局から提案されたスケジュールで進めていくことを確認した。

(6) JEAG4615 改定方針の検討

事務局より、資料 No.1-8 に基づき、放射線遮へい設計指針検討会 幹事会 議事メモが紹介され、今後の JEAC 化に向けての方針について議論した。

その結果、既設プラント改造・補修についても考慮すべき事項を抽出し、この項目の中から JEAC に盛り込むものを選択していくこととした。

今後の作業の進め方は以下のとおり。

検討会作業を効率的に進めるために、各委員は改定に当たって考慮すべき項目を抽出して、6月23日（金）までに事務局まで提出して、各社まとまった段階で、主査もしくは事務局から各委員に配信して、どの項目を JEAC に盛り込むかを検討して、次回検

討会で選択作業を行なうこととした。考慮すべき項目の抽出量が多い場合は、主要メンバーによる事前作業も考慮する。

主な意見は、以下のとおり。

2年のスケジュールとはいえ、改定手続きで実質1年の作業であるので、作業量も限られるのではないか。

2年にこだわる必要はないが、効率的な作業の進め方にすべき。

JEAGとJEACの棲み分け、本文と解説の棲み分けはどうなっているのか。

各規程の表分にある記載内容、規格策定基本方針の附則に規格策定の手引きで規定されているが、明確な棲み分けにはなっていない。規格の内容により、一概に断定しきれないところもあり、個々の規格に任せているのが、現状である。

前回の指針制定時には公衆審査意見対応に苦労したので、今回の改正時には、これまでの公衆審査意見を整理して同じような意見が出されないように留意すべき。

拝承。

本指針は、新設プラントを主眼とした内容が多々有り、既設プラントの改造・補修を考慮した内容が手薄になっている感がある。このためには既設プラントの許認可上の考慮すべき項目を抽出して、その項目をJEACに盛り込むのはどうか。

拝承。今後の進め方の第一歩とする。

(7) その他

次回検討会は、7月24日の週に開催することとした。具体的日時は今後調整して委員に連絡することとした。

以 上